

箱を開けてから本装置が使えるようになるまでの手順を説明します。このスタートアップガイドに従って作業してください。

## はじめに

梱包箱を開け、添付品がそろっていることを確認してください。



添付の「構成品表」を参照してください。



添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROMやその他のディスクは、セットアップ(または再セットアップ)の時に必要となりますので大切に保管しておいてください。また、事前に「EXPRESSBUILDER」内にある「ユーザーズガイド」を印刷して、本書と合わせて参照しておくことをお勧めします(裏面の「オンラインドキュメント」を参照してください)。

## ブレード収納ユニット

ブレード収納ユニットは、CPUブレードや電源ユニットなどを搭載する専用のケースです。ブレード収納ユニットは、NECのラックまたはEIA規格に準拠したNECが推奨するラックへ搭載します。



詳しくはブレード収納ユニットに添付の「ユーザーズガイド」を参照してください。

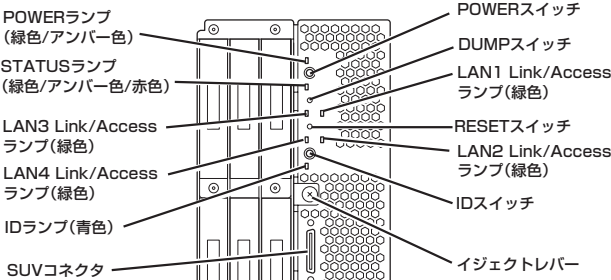
## CPUブレード

CPUブレードにはメモリやプロセッサ(CPU)、ハードディスクドライブ、拡張ボードなどのオプション品を取り付けることができます。



オプション品については「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されている「ユーザーズガイド」の「ハードウェア編」を参照してください。

各部の名称

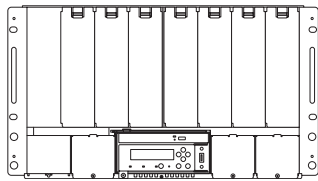


すべてのCPUブレードが実装されていない状態でブレード収納ユニットをラックに装着してからCPUブレードの取り付けを行ってください。

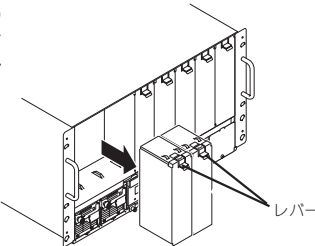


詳しくは、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されている「ユーザーズガイド」の「ハードウェア編」、ブレード収納ユニットのユーザーズガイドを参照してください。

<CPUブレードの取り付け手順>



- ① 本装置を取り付けるスロットにオプションのブラנקカバーが取り付けられている場合は、前面にあるレバーをつまんでロックを外し、引き出してブラנקカバーを取り外す。



- 取り外したブラנקカバーは大切に保管しておいてください。
- 本装置を取り付けるスロット以外のブラנקカバーを取り外さないでください。
- 本装置の実装可能スロットについては、SIGMABLADEシリーズのホームページ「http://nec8.com/」のシステム構成ガイドを参照してください。

右上につづく

### 安全に関するご注意

装置をセットアップする前に「ユーザーズガイド」の以下の項をお読みの上、注意事項を守って正しくセットアップしてください。

「安全にかかわる表示について」  
「使用上のご注意 ～必ずお読みください～」

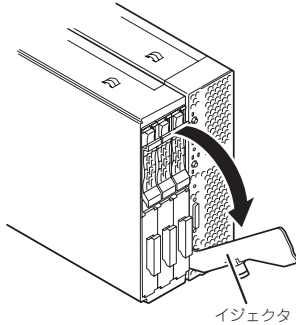
### 警告

- めれた手で電源プラグの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。
- CPUブレードへのオプションの取り付け・取り外しはCPUブレードの電源をOFFにし、ブレード収納ユニットから取り出してから行ってください。
- 雷が降り出したらケーブル類を含め装置に触らないでください。雷害による感電のおそれがあります。
- 「ユーザーズガイド」に記載されている内容を除き、分解・修理・改造を行わないでください。

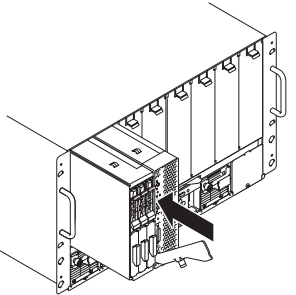
### 注意

- ブレード収納ユニットの持ち運びの際は4人以上でブレード収納ユニットに取り付けてあるハンドルをしっかりと持って運んでください。
- 水、湿気、ほこり、油、煙の多い場所、また直射日光の当たる場所に設置しないでください。
- ブレード収納ユニットに添付されている電源コードまたは指定の電源コード以外を使用しないでください。
- 電源コードは指定の電圧、コンセントに接続してください。
- 電源コードはタコ足配線にしないでください。

- ② 本体をほこりのない、丈夫で平らな机の上に静かに置き、イジェクタのネジをゆるめ、イジェクタを開ける状態にする。

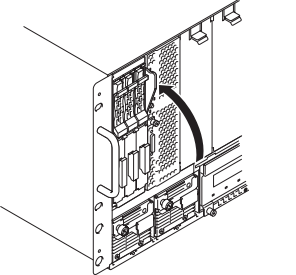


- ③ ハードディスクドライブ実装面を右にし、MP接続用コネクタがブレード収納ユニット側になるようにして、本体のフレームをしっかり持つ。

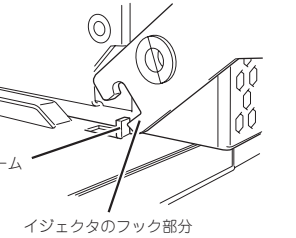


CPUブレードをブレード収納ユニットに取り付ける際は、イジェクタを持たないでください。イジェクタが外れて装置が落下したり、イジェクタが曲がって装置が破損してしまったりする恐れがあります。

- ④ 本体のフレームをブレード収納ユニットのガイドレールに合わせてゆっくりと正しい位置にブレード収納ユニットの奥まで差し込む。



イジェクタのフック部分が図のようにブレード収納ユニットのフレームに当たっていることを確認してください。

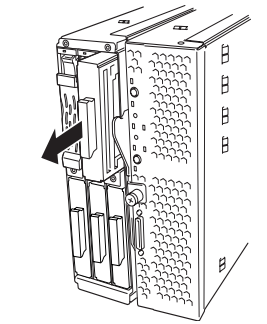


- ⑤ イジェクタをしっかり押し込み、本体前面のフレーム部分を指で押し、イジェクタのネジを締めてCPUブレードを固定する。

## ハードディスク

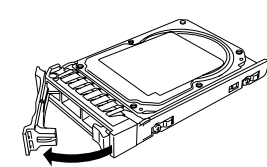
CPUブレード1枚に対して6台接続することができます。市販のハードディスクを搭載することはできません。本装置専用のハードディスクを購入してください。

- ① 2台目以降を取り付ける場合は、ハードディスクドライブを取り付けるスロットにダミートレーが取り付けられているのでダミートレーを取り出す。

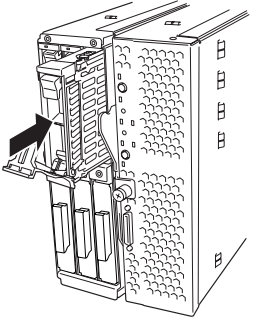


取り外したダミートレーは大切に保管しておいてください。

- ② ハードディスクドライブのレバーのロックを解除し、ハンドルを開いた状態にする。

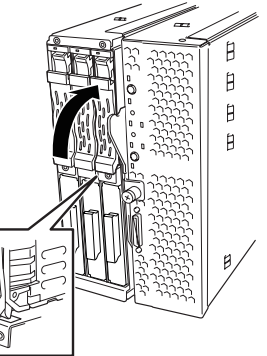


- ③ ハードディスクドライブのBPコネクタをストレージユニット側に、またドライブキャリア前面のレバーが上側に向くようにして持つ。



- ④ ドライブキャリアの端を増設するハードディスクドライブスロットにゆっくりと正しい位置に差し込む。

- ⑤ ドライブキャリアを突き当たるまで差し込んだら、レバーを持ち上げる。ハードディスクドライブのレバー下にあるフックがフレームに引っ掛かるようにしてください。

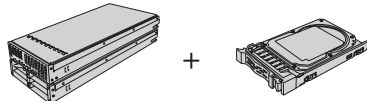


レバーのフックがフレームに引っ掛かっていることを確認してください。

## 購入時のモデル(状態)について

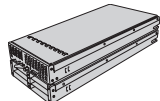
本製品は、お客様のご注文の内容により、次の2つのモデルに分かれます。モデルによって電源ONからのセットアップの方法が異なります。購入時のモデルによってこの後の説明を読み分けてください。

カスタムインストールモデル



ハードディスクには、Windows Server 2003 x64 Editions日本語版または、Windows Server 2003日本語版とオーダーされたソフトウェアがインストール済みです。

ディスクレスモデル



ハードディスクやオペレーティングシステムなどは別途購入してください。

## 各種オプションの取り付け

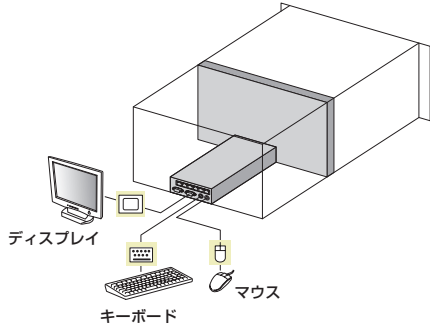
CPUブレードの動作に必要なオプションやブレード収納ユニット用の各種オプションを実装してください。



詳しくはブレード収納ユニットに添付の「ユーザーズガイド」を参照してください。

## ケーブルの接続 ～セットアップを始める前に～

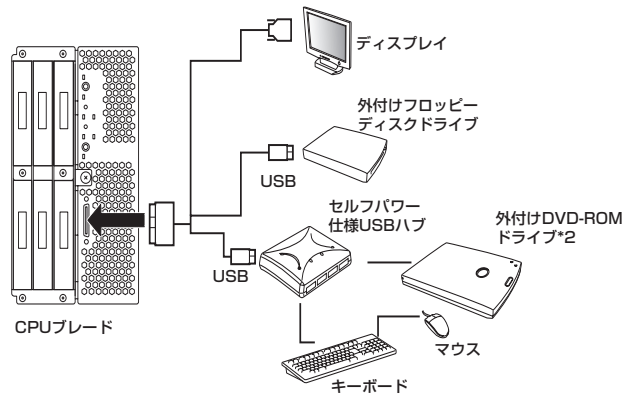
キーボード、マウス、ディスプレイとの接続や、ネットワークなどの機器には、本体背面にあるMP接続用コネクタと接続されるブレード収納ユニットのボードを経由して、それぞれに接続されたデバイス/周辺機器と接続します。



また、本体装置前面にあるSUVコネクタは日常の運用をする際に使用するものではありません。SUVコネクタは次の場合に使用します。

- OSインストールを行う場合(\*1)
- 保守作業を行う場合
- BIOS/各種FWのアップデートを行う場合

SUVコネクタにK410-150(00)SUVケーブル(ブレード収納ユニット(SIGMABLADE)に添付、もしくは、別売)を接続し、SUVケーブルの先に付いてあるコネクタに各デバイスを接続します。



- \*1 本装置をブレード収納ユニット(SIGMABLADE-H)に搭載した場合のみ。  
\*2 N8460-009外付DVD-ROMセットを使用する場合は、外付DVD-ROMセットに添付されている二股USBインタフェースケーブルを使用してください。



詳しくは、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されている「ユーザーズガイド」の「ハードウェア編」、ブレード収納ユニットのユーザーズガイドを参照してください。

最後に電源ユニットに添付の電源コードを本体背面にある電源ユニットのACインレットとAC100VまたはAC200Vのコンセントに接続します。



N8405-017/023電源ユニットに添付の電源コードはAC200V専用です。また、N8405-039電源ユニットに添付の電源コードはAC100V専用です。それ以外の電圧のコンセントには接続しないでください。



裏面に続く



## システムのセットアップ ～カスタムインストールモデル～

カスタムインストールモデル(Windows)

ハードディスクドライブにインストール済みのWindows Server 2003 x64 Editionsまたは、Windows Server 2003 のセットアップをします。

**参照** 手順の詳細は、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されている「ユーザーズガイド」の「導入編」を参照してください。また、セットアップの完了後に「デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップ(ユーザーズガイド参照)および「障害処理のセットアップ(ユーザーズガイド参照)」を行ってください。

セットアップには、次の2つの方法があります。

- キーボード・ディスプレイ装置・DVD-ROMドライブ・フロッピーディスクドライブが接続されている場合
  - 周辺装置、ブレード収納ユニット、CPUブレードの順に電源をONにする。  
Windowsのセットアップ画面が表示されます。
  - 管理者権限のあるユーザー(Administratorなど)でログオンする。  
使用者名と会社名を入力するウィンドウが表示されます。
  - 使用者名と会社名を入力する。  
以上でオペレーティングシステムの基本的なセットアップが完了します。必要に応じて、個別の設定をしてください。オペレーティングシステムの設定については、スタートメニューから起動するオンラインヘルプを参照してください。
- キーボード・ディスプレイ装置・DVD-ROMドライブ・フロッピーディスクドライブを接続していない場合  
セットアップをする前に、ターミナルサービスのクライアントコンピュータを設定する必要があります。クライアント用のコンピュータを1台用意し、OSをインストールしてからクライアントサービスを設定してください。CPUブレードには、ターミナルサービスが「リモート管理サーバ」としてインストールされていますので、設定したクライアント側から、CPUブレードに接続し、CPUブレード側の管理作業を行ってください。

カスタムインストールモデル(Linux)

ハードディスクドライブにインストール済みのLinuxをセットアップします。


**参照** 手順の詳細は、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されている「ユーザーズガイド」の「導入編」を参照してください。

## システムのセットアップ ～ディスクレスモデル～

Windows OSがインストールされていないモデルの場合(ディスクレスモデル)・再インストールの場合

インストール前に、キーボード・ディスプレイ装置・DVD-ROMドライブが接続されていることを確認してください。インストールには、添付のEXPRESSBUILDER「CD-ROMを使います(フロッピーディスクドライブを使用してインストールを進める場合は、フロッピーディスクドライブが接続していることを確認し、別途 1.44MBフォーマット済みの空きフロッピーディスクをご用意ください)。

- 重要** 装置に添付のEXPRESSBUILDERに対応していない大容量記憶装置コントローラに接続されたハードディスクドライブにインストールする場合は、「ユーザーズガイド」の「導入編」―「応用セットアップ」を参照してください。対応コントローラの確認は、コントローラに添付のセットアップ手順書またはユーザーズガイドを参照してください。
- Windows Server 2003 x64 Editionsをインストールする場合は、「Microsoft Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition/Microsoft Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition インストールेशनサプリメントガイド」を参照して「ローカルインストール」を使用してください。

- 本体の電源をONにする。
- EXPRESSBUILDER「CD-ROMを本体のDVD-ROMドライブにセットする。
- <Ctrl>キーと<Alt>キーを押しながら<Delete>キーを押して再起動させる。  
CD-ROMからEXPRESSBUILDERが起動します。
- 「シームレスセットアップ」をクリックする。
- メッセージが表示されるので、パラメータファイルを使用する場合は「はい」を、使用しない場合は「いいえ」を選択する。

パラメータファイルを使用しない場合は手順⑥へ進んでください。

【既存のパラメータファイルを使用する場合】

- インストールに使用するパラメータファイルを選択する。  
確認のダイアログボックスが表れます。
- パラメータを確認する場合は[確認]を、確認せずにそのままインストールする場合は、[スキップ]をクリックする。  
[確認]をクリック→手順⑥へ進む  
[スキップ]をクリック→手順⑦へ進む

【フロッピーディスクをセットした場合】

- 【ファイル名:(A)】の下にあるボックスをクリックするか、<A>キーを押す。  
入力ボックスが表示されます。



- ファイル名を入力する。  
ディスクアレイコントローラが接続されている場合は、設定用のウィザードが現れますので、必要に応じてパラメータを指定してください。
- インストールするオペレーティングシステムを選択する。  
リストボックスから[Windows]を選択します。



- Windowsおよび各種ソフトウェアに関する設定を行う。  
設定用のウィザードが現れますので、必要に応じてパラメータを指定してください(手順⑤で「パラメータファイルを使用する」設定を選択した場合は、この手順はスキップできます)。ウィザードを終了し、OS CD-ROMへ交換後、「ソフトウェア使用許諾契約」に同意すると、自動的にセットアップが開始されます。

手順⑤で作成したフロッピーディスクは、EXPRESSBUILDERと一緒に保管しておいてください。再セットアップの際にこのフロッピーディスクを使用すれば、パラメータの入力を省略することができます。

**参照** 手順の詳細は、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに格納されている「ユーザーズガイド」の「導入編」を参照してください。また、セットアップの完了後に「デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップ(ユーザーズガイド参照)」および「障害処理のセットアップ(ユーザーズガイド参照)」を行ってください。

## EXPRESSBUILDERを使ったセットアップをする

添付のEXPRESSBUILDER CD-ROMに各種ユーティリティが格納されています。これらはExpress5800シリーズが提供するシステム全体の運用管理を行うためのユーティリティです。TCO(Total Cost of Ownership)の削減、重大障害の未然防止、障害からの早期復旧を実現するために、EXPRESSBUILDERを使って使用になる環境に合った状態にセットアップしてください。

ここでは、EXPRESSBUILDER CD-ROMにある各種ユーティリティについて紹介します(OSがインストール済みのモデルではあらかじめこれらのユーティリティもインストールされているものがあります)。

**参照** 「ユーザーズガイド」の「ソフトウェア編」またはオンラインドキュメントを参照してインストールやセットアップをしてください。ここで記載されていないユーティリティについては、ユーザーズガイドまたはオンラインドキュメントで説明しています。

「エクスプレス通報サービス」は、お客様とNECをひとつに結び、安心・充実した運用と各種サポートを提供するユーティリティです。NECが提供するサポートサービス体系「iBestSolutions システムサポートサービス」の基礎となるものであり、「ESMPRO/ServerAgent」が検出したトラブルやその兆候が現れた際にインターネットや公衆回線を介して「監視センター」に通報します。

これを受け、「監視センター」は、全国430か所以上にあるNECフィールドिंगの保守サービス拠点のうち、もよりの拠点に指示を出し、サービスエンジニアがサー先へ出向いてトラブルの未然回避や復旧処置を行います。  
なお、ご利用に際しては、別途有償のハードウェア保守契約が、通報サービス契約が必要です。

オプションのディスクアレイコントローラや本体装置内蔵のアレイディスクの状態を監視・保守するユーティリティ。本体にMegaRAID Storage Managerをインストールします。MegaRAID Storage Managerを別途管理PCにもインストールしてリモートから監視・保守することも可能です。

―装置のさまざまな障害情報を収集し、状態の判定を行い異常を検出すると、ESMPRO/ServerManagerへアラート通報を行います。  
―障害の予防対策として、事前に障害の発生を予測する予防保守機能をサポートしています。筐体内温度上昇やハードディスクドライブ劣化などを事前に検出できます。  
―装置の詳細なハードウェア構成情報、性能情報を取得できます。取得した情報はESMPRO/ServerManagerを通してどこからでも参照できます。

ESMPROはサーバシステムの安定稼動と、効率的なシステム運用を目的としたサーバ管理ソフトウェアです。本製品を導入することにより、装置の構成情報・性能情報・障害情報をリアルタイムに取得・管理・監視できるほか、アラート通報機能により障害の発生を即座に知ることができるようになります。

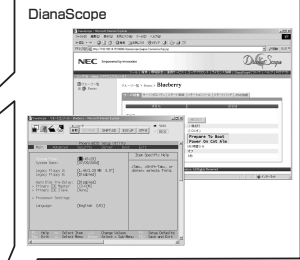
セットアップユーティリティ



OS再インストール(シームレスセットアップ)やシステム診断、各種サポートディスクの作成などExpress5800シリーズのシステムを構築するためのセットアップユーティリティ。

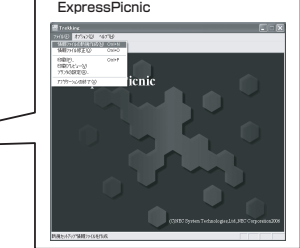
装置をリモート管理するためのユーティリティ。

システム管理ユーティリティ

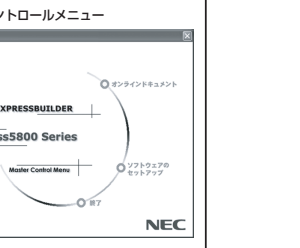


「シームレスセットアップ」で使用する「セットアップパラメータFD」を作成するWindowsベースのユーティリティ。

セットアップユーティリティ



セットアップ支援ツール



ネットワーク上に分散したサーバを効率よく管理できるGUIインタフェースを提供するユーティリティ。

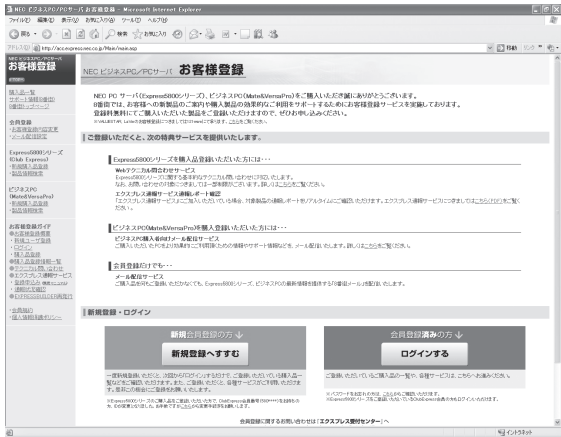
Windowsベースの各種ユーティリティのインストールからセットアップや保守の際に使用するサポートディスクの作成などをナビゲートする統合支援ツール。ユーザーズマニュアルなどのドキュメントの開覧もできます。

## お客様登録をする

添付の「お客様登録申込書」またはインターネット(WWW)を利用して登録を行います。

添付の「お客様登録申込書」に必要事項を記入の上、「エクスプレス受付センター」までご返送ください。返送していただいたお客様は、「ClubExpress会員」に登録させていただきます。「ClubExpress会員」は、インターネットからも登録手続きが行えます。

<http://club.express.nec.co.jp>



また、Express5800シリーズをはじめとするさまざまな製品の情報は以下のインターネット情報サイトにあります。ご覧ください。

【NEC8番街】 <http://nec8.com>

以上でExpress5800シリーズのセットアップは完了です。  
ご利用の環境に合わせてその他使用するアプリケーションのインストールとセットアップをしてください。  
Express5800シリーズを末永くご利用ください。

Express5800シリーズに関するご質問・ご相談は「ファーストコンタクトセンター」でお受けしています。(電話番号のかけまちがいが増えております。番号をよくお確かめの上、おかけください。)

ファーストコンタクトセンター TEL. 03-3455-5800(代表)

受付時間 / 9:00～12:00、13:00～17:00 月曜日～金曜日(祝祭日を除く)

### サービスパックの適用について

本装置にサービスパック(SP)を適用する場合は、SPを単独で適用すると起動できなくなったり、動作が不安定になったりします。十分ご注意ください。適用方法はSPの添付状況により異なりますので、ユーザーズガイドの導入編またはインターネット情報サイト「<http://nec8.com>(8番街)」を参照してください。

また、Windows Server 2003 Service Pack xを適用する場合は、「シームレスセットアップ」または「システムのアップデート」で行ってください。装置に「Windows Server 2003 R2 x対応(Service Pack x)差分モジュール」および「Windows Server 2003 R2 x(Service Pack x)インストール手順書」が添付されている場合がありますが、本差分モジュールおよび手順書は使用しないでください。破棄するか、装置に添付されているほかの媒体と異なった場所に保管してください。

通常、ご使用になられても次のようなメッセージが表示され、セットアップが続行できませんが、メッセージが表示されず適用された場合は、再度EXPRESSBUILDER「CD-ROMからシステムのアップデート」を行ってください。このときサービスパックを再適用する必要はありません。

セットアップメッセージ  
このWindows RUIは、この装置には対応していません。  
ご使用の装置を確認してください。

### 商標について

EXPRESSBUILDERとExpressPicnic、ESMPRO、DianaScopeは日本電気株式会社の登録商標です。MicrosoftおよびWindows、Windows Server、Windows NTは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。LinuxはLinus Torvaldsの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

このマニュアルは再生紙を使用しています。

© NEC Corporation 2007  
NECの許可なく複製・改変などを行うことはできません。